

平成 2 6 年
(2014)

あわら市観光白書

平成 2 7 年 2 月

あわら市観光商工課

平成26年あわら市観光白書

1 平成26年実績

平成26年1月から12月までの1年間にあわら市を訪れた観光客数は、1,819,200人(対前年比269,700人、17.4%の増)で、このうち宿泊客数は820,000人(同1,200人、0.1%の減)、日帰り客数は999,200人(同270,800人、37.2%の増)であった。

観光地別観光客数

観光地別では、福井県随一の温泉観光地であるあわら温泉の828,400人が最も多く、次いで農産物直売所きららの丘220,800人、ゴルフ場137,600人、金津創作の森135,900人、北潟湖畔128,400人、平成26年4月にオープンした芦湯113,700人、その他(セントピアあわら、吉崎御坊等)254,400人となっている。

発地別観光客数

発地別内訳で見ると、県内客は54.6%の993,700人、県外客は45.4%の825,500人となり、おおむね半々に分かれている。

県外客の内訳では、あわら温泉が「関西の奥座敷」といわれるように、関西方面(1)からの客数が325,000人(県外客の39.4%)と最も多く、次いで中京方面(2)の176,900人、北陸(石川・富山)方面の166,600人、関東方面の85,000人の順となり、関西・中京方面からの客数が県外客全体の60%を占めている。

一方、国外からは、昨年1年間に日本を訪れた外国人観光客は1,300万人を超えているが、あわら温泉の外国人宿泊者数は6,500人と、少数にとどまっているのが現状である。国・地域の内訳では、台湾からの観光客が最も多く、次いで香港、シンガポールの順となっている。

(1) 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6県

(2) 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

2 平成25年との比較

あわら温泉宿泊客発地別内訳の変化

宿泊客をあわら温泉だけに限るとその数は808,400人で、ほぼ前年並みとなったが、その内訳に変化が見られた。県内や北陸からの宿泊客数は、前年より減少したものの、首都圏や関西、中京、中国・四国からの宿泊客数は、大幅に増加した。これは、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に向けて、全国的な注目が北陸に集まっていること、また、舞鶴若狭自動車道の全線開通による入り込み数の増加が要因だと考えられる。

年間の動きを見ると、消費税増税後の4～6月は、増税の影響を受けて大幅に前年度を下回ったが、増税前の1～3月が前年度を大幅に上回ったことと、秋以降少しづつ客足が戻ってきたことなどから、全体では前年並みとなった。

日帰り客数増加

日帰り客の総数は、前年比270,800人、37.2%増の999,200人と大幅な増加となった。その要因としては、農産物直売所きらの丘を新たに統計に加えたこともあるが、4月にあわら温泉湯のまち広場にオープンした芦湯の入り込み数が純増となったことと、それに伴う湯けむり横丁の入り込み数が好調だったことなどが挙げられる。また、「ちはやふるweek」やJR芦原温泉駅前でのにぎわい市など、新たな各種イベントの実施も入り込み数を伸ばしている。

総合的評価

観光地ごとの状況は以上のとおりであるが、あわら市全体で見た増加の要因としては、芦湯に代表されるような魅力ある観光施設の整備や素材の磨き上げを進めていることや、首都圏をはじめとする県外へのプロモーション強化によるあわら温泉の知名度向上が、県外からの集客増に結びついたものと考えられる。

3 今後の対応

平成27年3月に北陸新幹線が金沢まで開業すると、首都圏や北関東、甲信越から北陸を訪れる観光客の数が大幅に増加することが予想される。加えて、その約8年後には敦賀までの県内延伸が決定しており、当面は、北陸地域が観光地として注目されるものと考えられる。

こうした新高速交通のネットワークの形成と、本県を取り巻く交通体系の進展は、「あわら温泉」の魅力向上に大きな影響を及ぼすことになる。

この機会を逃すことのないよう、観光関係者が連携し、観光資源のさらなる磨き上げや情報の発信はもとより、魅力ある滞在型の観光地づくりを戦略的に推し進めていくことが必要となる。

あわら市の対応

あわら温泉では、北陸新幹線金沢開業後も引き続き、国や県の支援を受けながら、温泉情緒あふれる華やぎのまちの創出と、地域で観光客のおもてなしができる空間の形成を進めている。さらにイベントを継続的に実施することにより、温泉街への人の流れと回遊性の創出に努める。

一方、JR芦原温泉駅周辺においては、金津本陣にぎわい広場の観光拠点施設「aキューブ」を核として、金津本陣IKOSSAまでのエリアにおいて、回遊ルートの修景や誘導案内サインの整備、金津本陣飾り物展示施設の整備などを行うとともに、イベントなどのソフト事業の充実も図る。

また、イメージ戦略として、映画「利休にたずねよ」や「サクラサク」などを手掛けた田中光敏監督による観光プロモーションビデオを活用したPRの展開や、漫画「ちはやふる」とのコラボレーションイベントなど、全国的な市の知名度アップに向けた取り組みを進める。

平成27年10月には、JRグループ6社による大型観光キャンペーン「北陸 DESTINATION キャンペーン」が行われ、北陸が全国にPRされ、訪れる観光客が増える中、リピーター確保に向け、着地型商品の充実や二次交通の整備など、満足度向上に向けた取り組みを事業者と連携して進めていく。

さらに、あわら温泉で平成27年に開催される開湯130周年祭を機に、定期的なイベントを創出するとともに、地域が一体となって観光客をもてなす体制を整え

る。

また、今後大きな可能性を秘める外国人観光客の誘致に向け、「温泉旅館に泊まる」という日本独自の文化の魅力を最大限に活かした誘客を図るとともに、受け入れ体制の強化に取り組む。

広域連携

広域的な観光戦略では、「越前加賀広域観光推進協議会」や「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」、「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」、「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」等を通じて、近隣市町と連携した情報発信や施策の展開を行っている。

観光施策における広域連携のメリットは、「越前」「加賀」「北陸」といったエリアを前面に押し出して情報を発信し、各地の観光素材を生かした集客が図られることである。各市町がそれぞれの強みを生かし、観光素材や交通アクセス等について、統一したPRを展開していくことで、地域の魅力を全国に発信し、「あわら」の魅力向上へとつなげていく。